

指摘すべきキーワード

瞬時にキーワードを指摘する

生徒のノートを一読して瞬時にキーワードを指摘できるようにします。「スーパービート板」の授業における生徒のノートには、次のような記述が見られます。それぞれの記述から、キーワードを見つけ出し、赤ペンで線を入れるなどして、その言葉の裏を考えなくてはなりません。

当たり前の行動が不思議に思える人にとっては当たり前ではない。当たり前の行動をとっている人の意味が分からない。なぜ泣くのか。最大級の拍手が起こるのはなぜか。

→ 指摘すべきキーワードは「意味」

それだけクラスメートたちは、作者が「自分たちと同じことをしただけなのに」と思っているのだと思います。もしそうでなければ、クラスメートたちも一緒になって泣いたりほめたりしていたと思います。

おばさんたちやほかの2校は、作者を特別視しているから泣いたりしたのだと思います。

→ 指摘すべきキーワードは「それだけ」

指導法はもっと工夫できる

ねらいは絞り切りましたが、指導法はもっと工夫できます。まだまだ授業改善の道は険しいのです。授業研究を重ねるたびに、ねらいを絞り、やるべきことを絞り、一つのことを深く考えていけるようにしました。

しかし一方で、新たな課題が明らかになりました。すなわち、次のステップが見えてきました。それは学習指導法の改善です。

何に気づかせるのか、そこを考えればもっと楽に到達できる場所はどこか、ここに着目すれば、よりわかる場所はどこかなどです。そのためには、生徒をよく見ることです。きっかけをとらえて考えさせることです。正解に近づくためのヒントを与えます。ヒントの与え方では教材研究が大切になってきます。個別指導での多くのつまずきには、全体指導が必要であり、どういうふうに軌道修正するかです。

また、もっと生徒の発表に対して厳しくなるべきです。そのためには、生徒が言ったことをそのまま認めることが、生徒を大切にすることではないということを肝に銘じ、生徒に考えるきっかけを与えることです。生徒が、空想や思いつき、想像で話すことはよくあることです。妥協しないことです。